

CA Performance Center

オペレータガイド

2.4



このドキュメント（組み込みヘルプシステムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」）は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社（以下「CA」）により随時、変更または撤回されることがあります。

CA の事前の書面による承諾を受けずに本ドキュメントの全部または一部を複写、譲渡、開示、変更、複本することはできません。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報です。ユーザは本ドキュメントを開示したり、
(i) 本ドキュメントが関係する CA ソフトウェアの使用について CA とユーザとの間で別途締結される契約または (ii) CA とユーザとの間で別途締結される機密保持契約により許可された目的以外に、本ドキュメントを使用することはできません。

上記にかかわらず、本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負いません。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本ドキュメントの制作者は CA です。

「制限された権利」のもとの提供: アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2014 CA. All rights reserved. 本書に記載された全ての製品名、サービス名、商号およびロゴは各社のそれぞれの商標またはサービスマークです。

CA Technologies 製品リファレンス

このドキュメントでは、以下の CA Technologies 製品および機能に言及します。

- CA Performance Center
- CA Infrastructure Management Data Aggregator
- CA NetQoS® Performance Center
- CA Single Sign-On
- CA Network Flow Analysis
- CA Application Delivery Analysis
- CA Unified Communications Monitor
- CA eHealth
- CA Spectrum

CA への連絡先

テクニカル サポートの詳細については、弊社テクニカル サポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

目次

第 1 章: CA Performance Center の概要	7
CA Performance Center について.....	7
重要な用語および概念.....	8
CA Performance Center の起動.....	10
第 2 章: 環境の設定	11
ユーザアカウントのタイムゾーン.....	11
自身のユーザアカウントの設定の変更.....	12
第 3 章: インベントリ ページの使用	13
管理対象アイテムのインベントリ.....	13
インベントリ ページ.....	14
検索の実行.....	15
管理対象アイテムの検索.....	16
フィルタによる検索結果の絞り込み.....	17
第 4 章: レポート	19
ダッシュボードおよびレポート.....	19
CA Performance Center でのデータの表示.....	20
ダッシュボード ページの表示.....	21
レポート ページのタイプ.....	22
ファクトリ ダッシュボード.....	23
コンテキスト ページナビゲーション.....	23
デバイス名の表示.....	24
ビュー オプション.....	24
ダッシュボードのタイム フレームの変更.....	26
タイムフレームへのズーム インによる絞り込み.....	28
カスタム タイムフレームの設定.....	29
ダッシュボードのコンテキストの変更.....	30
ビューのデータ コンテキストの変更.....	31
他のユーザとのデータの共有.....	33
レポートの印刷.....	33
電子メールでレポートを送信.....	34

定期電子メール スケジュールのセットアップ	35
電子メール スケジュールの管理	38
ビュー用の URL の生成.....	39
第 5 章: イベント	43
イベント.....	43
イベント タイプ	44
イベント リスト ビュー	44
イベント 詳細.....	46
イベント プロパティ	47
イベント 保存の管理.....	48
通知.....	49
EventManager 形式をトラップに使用	51
nhLiveAlarm 形式をトラップに使用.....	53
第 6 章: グループの操作	57
グループ.....	57
グループのタイプ	58
マルチテナント展開のグループ	59
独自のカスタム グループの作成	62
手動で管理対象アイテムをグループに追加	64
ルールに従って管理対象アイテムをグループに追加	66
用語集	69

第 1 章: CA Performance Center の概要

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[CA Performance Center について](#) (P. 7)

[重要な用語および概念](#) (P. 8)

[CA Performance Center の起動](#) (P. 10)

CA Performance Center について

CA Performance Center は、物理および仮想ネットワーク、アプリケーション、およびデバイスの効率的な管理を支援する Web ベースのレポートインターフェースです。CA Performance Center のダッシュボードとレポートには、ネットワーク製品とシステム監視製品からのパフォーマンスデータが表示されます。1 つの Web ページ上で複数のソースからの大量の統計データを比較できます。

CA Performance Center は、アプリケーションサービス配信に対して「パフォーマンス重視」のアプローチを取っています。このアプローチはエンドユーザーを中心的役割に据えます。IT 組織がユーザーへのアプリケーション配信を適切にサポートしているかどうかを判断するには、アプリケーション、デバイス、およびネットワークからデータを収集して分析する必要があります。

CA Performance Center は、アプリケーションの応答時間、トラフィック構成、インフラストラクチャヘルス、およびフローベースの診断に関する役割固有のビューを提供します。

重要な用語および概念

CA Performance Center を効果的に使用するために、以下の用語と概念をよく理解しておいてください。

データソース

データソースは、パフォーマンスデータおよび設定データを CA Performance Center に提供するサポート対象製品です。データを監視、収集、集計するデータソース製品は、多くの場合独立して機能します。ただし、CA Performance Center のインスタンスに登録されると、データソースとして認識されます。

ダッシュボード

ダッシュボードは、CA Performance Center ユーザインターフェース内で動的にレポートを作成するページです。これらは、[ダッシュボード] タブからアクセス可能なメニューアイテムとして表示されます。各ダッシュボードは、単一の Web ページ上の登録済みのデータソースからのデータを表示するビューのコレクションです。各ダッシュボードのレイアウト、ビュー、時間間隔、およびグループコンテキストは、カスタマイズできます。

レポート

レポートは、オンデマンドで選択した内容またはエクスポートされたダッシュボードページからの静的な出力です。ダッシュボードからエクスポートしたレポートは、関連するダッシュボードにデータおよび情報から静的なデータセットを作成します。オンデマンドのレポートは、インベントリ内の単一の管理対象アイテムまたはそのグループからのデータセットをキャプチャします。レポートは、印刷、電子メールでの送信、PDF や CSV 形式でのエクスポートなどが可能です。各形式に対して、選択したデータセットがキャプチャされます。

ビュー

ビュー、またはデータビューは通常、グラフまたは表形式で統計データを示します。各ビューは、収集されたデータの個別のセットを表します。ユーザアカウントの役割の権限に応じて、ダッシュボードページに個別のビューを追加および編集、または削除できます。場合によっては、データを CSV 形式のファイルにエクスポートできます。

タブ

タブは、CA Performance Center インターフェースの上部に突出したリンクで、ダッシュボードおよび開いている管理ツールを表示します。たとえば、[ダッシュボード] タブは、メニューから表示するダッシュボード ページを選択できます。

メニュー

メニューとは、ダッシュボードをコンテンツによって構成するために使用する [ダッシュボード] タブのセグメントです。デフォルトでは、管理者とデザイナーがメニューをカスタマイズし、それらをユーザアカウント役割に割り当てることができます。

CA Performance Center には、マネージャやエンジニアなど、特別なタイプの役割に対する、ファクトリ（事前定義済みの）メニューも用意されています。

役割

役割は、製品機能およびダッシュボード ページへのユーザアクセスを制御するユーザアカウントに割り当てられたパラメータです。ユーザのジョブ機能に基づき、役割では、*役割の権限*を使用して製品設定への管理アクセス権を付与します。役割によって、ユーザは役職を実行するのに必要なデータおよび製品機能にアクセスできるようになり、必要としない機能へのアクセスは制限されます。役割は、CA Performance Center のデータ ソースとは異なるように定義することができます。ただし、役割は同じ CA Performance Center インスタンスに登録されているデータ ソース製品間で共有されます。

グループ

グループは、管理対象アイテム用のコンテナとして機能するフィルタ定義です。グループは、ツリー構造の管理対象アイテムを論理的に構成することができ、各グループにはサブグループまたは管理対象アイテムを含むことができます。構造はデータ ソースに継承され、データ ソースでは、トップレベルのグループから、さらに狭い関連コンテキストにドリルダウンできます。

CA Performance Center の起動

CA Performance Center セットアッププログラムを実行して、インストールが完了したら、Web ブラウザからコンソールプログラムを起動できます。

以下の手順に従います。

1. Web ブラウザを開きます。
2. アドレス フィールドに、以下のアドレスを入力します。

`http://<server IP address>:8181/pc/desktop/page`

`<server IP address>`

ソフトウェアがインストールされているコンピュータの IP アドレスです。

8181

ポート番号です。

ブラウザにログイン ページが表示されます。

3. 表示されたフィールドに **CA Performance Center** のユーザ名とパスワードを入力します。詳細については、「事前定義のユーザ アカウント」を参照してください。
4. (オプション) 管理者が設定したタイムアウト期間を超えてログイン状態を維持するには、[このコンピュータでログイン状態を保存する] を選択します。
5. [ログイン] をクリックします。

ホーム ダッシュボードで CA Performance Center コンソールが開きます。

第 2 章: 環境の設定

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[ユーザアカウントのタイムゾーン \(P. 11\)](#)

[自身のユーザアカウントの設定の変更 \(P. 12\)](#)

ユーザアカウントのタイムゾーン

各ユーザアカウントに対するタイムゾーンの設定により、ダッシュボードに適用されるタイムゾーンが決定されます。この設定は、関連付けられているオペレータが **CA Performance Center** へログインしている間に表示されるすべてのダッシュボードに適用されます。

ユーザアカウントが作成されるときに、管理者によって、適切なタイムゾーンがユーザに設定されます。通常、タイムゾーンは、**CA Performance Center** にアクセスするためにオペレータが使用するコンピュータのロケールに一致します。

ユーザアカウントの役割が、必要な役割権限を持っている場合、自身のユーザアカウントに対するタイムゾーンを変更することができます。

自身のユーザアカウントの設定の変更

各ユーザアカウントに関連付けられているタイムゾーンにより、ダッシュボードおよびビューでデータがどのように表示されるかが決まります。管理者は通常、ユーザアカウントの作成中に、各ユーザのタイムゾーンおよび優先言語を設定します。タイムゾーンは、CA Performance Centerにアクセスするためにオペレータが使用するコンピュータのロケールに一致する必要があります。

ユーザアカウントの役割が、必要な役割権限を持っている場合、自身のユーザアカウントに対するタイムゾーンおよび他のパラメータを変更することができます。

次の手順に従ってください:

1. 自身のユーザアカウントへログインします。
2. コンソールのユーザインターフェースの右上に表示されている、ユーザアカウントの名前をクリックします。
[ユーザ設定] ダイアログボックスが開きます。
ユーザの役割権限により、自身のアカウントに対して変更できるパラメータが決定されます。
3. [優先言語] ドロップダウンリストから、アカウントに対する適切な言語を選択します。
4. [電子メールアドレス] フィールドに、電子メールアドレスを入力します。
5. [タイムゾーン] リストから適切なタイムゾーンを選択します。
注: デフォルトタイムゾーンは UTC (協定世界時) です。
6. ドロップダウンリストから別のグループを選択して、デフォルトのレポートグループを変更します。
リストには、自身の権限グループのグループのみが含まれます。
7. 最初に現在のパスワードを入力して、パスワードを変更します。
8. 新しいパスワードを入力します。次に、確認のために新しいパスワードをもう一度入力します。
9. [保存] をクリックして変更内容を保存します。

第 3 章: インベントリ ページの使用

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[管理対象アイテムのインベントリ](#) (P. 13)

[インベントリ ページ](#) (P. 14)

[検索の実行](#) (P. 15)

管理対象アイテムのインベントリ

[インベントリ] ページは [インベントリ] タブから使用できます。インベントリには、すべてのデータ ソースが検出および監視するすべてのアイテム、つまり **管理対象アイテム** のリストが含まれています。アプリケーション、デバイス、インターフェースなどのすべてのタイプの管理対象アイテムは、インベントリ ページのリストビューに表示されます。インベントリは、オンデマンド レポートの作成に使用します。

このページの「コンソール」セクションには、別のコンソールを持つ登録済みのデータ ソースへのリンク一覧が含まれています。アクセスするには、各データ ソースの製品権限が必要です。

[インベントリ] リストには、登録済みデータ ソースの中で **CA Performance Center** で現在使用できるアイテムのカテゴリのみが表示されます。またこのリストには、アカウント権限セットに含まれるグループ メンバのアイテムのみが表示されます。カテゴリは、選択したタイプのすべての管理対象アイテムが示されている、フィルタされたリストへアクセスするためのリンクです。

リスト ページは、デバイスのホスト名や IP アドレスなど、各アイテムを識別するための最小限の情報を提供します。管理対象アイテムのオンデマンド レポートを有効化するには、チェック ボックスをオンにします。

複数のデータ ソースが 1 つの管理対象アイテムを監視している場合、**CA Performance Center** はそのアイデンティティを一致させて、インベントリ内に 1 つのアイテムを作成します。

詳細:

[検索の実行 \(P. 15\)](#)

[インベントリ ページ \(P. 14\)](#)

インベントリ ページ

[インベントリ] タブを使用して、タイプごとに整理されている管理対象アイテムのリストへアクセスできます。インベントリ ページおよびビューは、管理対象アイテムおよびアイテム グループの識別を容易にするような概要情報を提供して、トラブルシューティングを促進します。管理対象アイテムのオンデマンド レポートを有効化するには、チェックボックスをオンにします。

インベントリ内のアイテムは、以下のカテゴリに整理されています。

- グループとサイト
- デバイスとサーバ
- インターフェース
- インターフェース アドレス
- デバイス コンポーネント

登録されるデータ ソースに基づいて追加のカテゴリを利用できます。

eHealth エlement

レポートを生成するために CA eHealth がデータを収集して分析するデバイスまたはリソース (ルータ、サーバ、インターフェース、モデム、またはアプリケーションなど)。

アプリケーション

CA Application Delivery Analysis での監視用に定義されたサーバおよびポート番号の組み合わせ。

ネットワーク

CA Application Delivery Analysis での監視用にネットワークとして定義された IP アドレスの範囲。

ボイス インターフェース

CA Unified Communications Monitor により検出および監視される、ボイス ゲートウェイ デバイスまたはその他のメディア デバイスのインターフェース。

VoIP 場所

ユニファイド コミュニケーション システムからのレポート データを編成するために作成された CA Unified Communications Monitor の場所。

インベントリ カテゴリは個別のリスト ビューに分割され、関連するダッシュボードにデフォルトでが表示されます。これらのビューでは、関連するダッシュボードからアイテム コンテキスト ページヘドリルダウンすることができます。

「コンソール」セクションには、個別のサーバにインストールされている登録済みデータ ソースの管理コンソールへのハイパーリンクが含まれます。

検索の実行

展開規模によっては、何千もの管理対象アイテムがある場合があります。複数の検索機能を使用することで、特定のアイテムまたはアイテム グループのデータを見つけることができます。

ユーザ アカウントに必要な役割の権限がある場合は、[インベントリ] タブから検索を開始できます。このタブで、管理対象アイテム タイプのリストを表示できます。アイテムのリストを表示するには、リンクをクリックします。次に、リスト ビュー下の検索フィールドと、ソートおよびページング機能を使用して、リストのアイテムを検索します。

[インベントリ] ページおよび [検索結果] ページからは、オンデマンド レポートにもアクセスできます。

注: [インベントリ] を表示してグローバル検索を実行する機能は、それらの役割を持った個別のオペレータに許可されます。[インベントリと検索の表示] 役割の権限を持ったユーザのみに、[インベントリ] タブが表示されます。

グローバル検索を実行するには、任意のページの一番上にある検索フィールドを使用します。このタイプの検索は、すべてのデータソースで、データベース内のすべてのアイテムをスキャンします。グローバル検索は、[インベントリ]内の検索に一致するすべてのアイテムのリストを、アイテムタイプによってソートして返します。各ビューで、結果をさらにフィルタすることもできます。詳細については、「[フィルタによる検索結果の絞り込み \(P. 17\)](#)」を参照してください。

テーブルビューでは、さらに限定された検索機能が使用可能です。この機能は、特別な役割の権限を必要としません。テーブルフッタから検索を実行すると、管理対象アイテムをフィルタして、そのビューに表示されるアイテムを限定します。その他のビューまたはダッシュボードからのアイテムは、表示されません。

管理対象アイテムの検索

ネットワーク問題に関係する可能性のあるルータやサーバなど、単一の管理対象アイテムに関するコンテキスト情報に直接移動できます。データビューの検索フィールドでは、選択されたビュー内のアイテムを検索できます。検索結果内では、リンクをクリックして、選択したアイテムでフィルタされたデータビューを参照できます（コンテキストページ）。

次の手順に従ってください：

1. 検索を開始する[ダッシュボードページに移動 \(P. 21\)](#)します。
2. 検索フィールドに検索文字列を入力し、**Enter** キーを押します。
テキスト文字列、数を含む検索文字列、またはこれらの組み合わせを指定できます。
検索結果が、同様のアイテムのカテゴリに表示されます。アイテムタイプが示されます。
3. リストから、タイプがサーバであるアイテムの1つをクリックします。
選択したアイテムのサーバコンテキストページが表示されます。
デフォルトでは [詳細] タブが選択されています。このページには、サーバを識別するための詳細なデータが表示されます。製造元およびモデル、グループコンテキスト、関連付けられた **SNMP** 情報などです。
このタブのグループコンテキスト情報は、サーバの特定に役立ちます。

詳細情報:

[フィルタによる検索結果の絞り込み \(P. 17\)](#)

フィルタによる検索結果の絞り込み

[検索] フィールドにワイルドカード文字またはフィルタ テキストを追加することで、実行する検索結果を狭める、または広げることができます。フィルタは、グローバル検索またはビュー レベル検索に適用できます。

検索には、ワイルドカード文字としてアスタリスク (*) を使用できます。以下に例を示します。

- 「serv*」は、「serv」で始まるエントリのあるすべての行を返します。
- 「*erver」は、「erver」で終わるエントリのあるすべての行を返します。
- 「*server*」は「server」と同様に、たとえば my_server、server1、または単に server など、「server」という単語が含まれるすべての単語を返します。
- 「ser*ver」は、「server」など、「ser」で始まり、「ver」で終わるすべての単語を検索します。

検索結果を狭めるには、複数の検索語を追加します。たとえば、「server 192.168*」という検索文字列を使用してデバイスを検索した場合、検索は 192.168.0.0/16 のネットワーク上のすべてのサーバを返します。

ユーザの環境に 400 万のサーバなど多数の管理対象アイテムが含まれる場合は、グローバル検索のフィルタリングを推奨します。そうしないと、グローバル検索を行うたびに、ユーザ インターフェースのパフォーマンスが制限されてしまいます。

第 4 章: レポート

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[ダッシュボードおよびレポート](#) (P. 19)

[ビューオプション](#) (P. 24)

[他のユーザとのデータの共有](#) (P. 33)

ダッシュボードおよびレポート

ダッシュボードは、CA Performance Center ユーザ インターフェース内で動的にレポートを作成するページです。これらは、[ダッシュボード] タブからアクセス可能なメニュー アイテムとして表示されます。各ダッシュボードは、単一の Web ページ上の登録済みのデータ ソースからのデータを表示するビューのコレクションです。各ダッシュボードのレイアウト、ビュー、時間間隔、およびグループ コンテキストは、カスタマイズできます。

注: ユーザ アカウントの役割の権限によって、表示できるダッシュボードが決まります。

レポートは、オンデマンドで選択した内容またはエクスポートされたダッシュボード ページからの静的な出力です。ダッシュボードからエクスポートしたレポートは、関連するダッシュボードにデータおよび情報から静的なデータセットを作成します。オンデマンドのレポートは、インベントリ内の単一の管理対象アイテムまたはそのグループからのデータセットをキャプチャします。レポートは、印刷、電子メールでの送信、PDF や CSV 形式でのエクスポートなどが可能です。各形式に対して、選択したデータセットがキャプチャされます。

ダッシュボードはメニューで体系化されています。メニューとは、ダッシュボードをコンテンツによって構成するために使用する [ダッシュボード] タブのセグメントです。デフォルトでは、管理者とデザイナーがメニューをカスタマイズし、それらをユーザ アカウント役割に割り当てることができます。

CA Performance Center には、一連のファクトリ ダッシュボードおよびメニューが用意されています。これは、データ ソースを登録した直後に使用できるようになっています。必要な役割の権限を備えているユーザは、ダッシュボード、メニュー、およびビューを広範にカスタマイズして、個々のオペレータに対するカスタム システムを作成することもできます。

使用できるメニューおよびダッシュボードは、[ダッシュボード] タブにマウスを置いた場合、[ダッシュボード] タブをクリックしたときに表示されます。

CA Performance Center でのデータの表示

ダッシュボード ページには、CA Performance Center が登録済みのデータ ソースから受信し、解釈およびフォーマットするデータの動的ビューが表示されます。ビュー、またはデータ ビューは通常、グラフまたは表形式で統計データを示します。各ビューは、収集されたデータの個別のセットを表します。ユーザ アカウントの役割の権限に応じて、ダッシュボード ページに個別のビューを追加および編集、または削除できます。場合によっては、データを CSV 形式のファイルにエクスポートできます。

ダッシュボード ページ上のビューの配置は自由に変更できます。必要な役割の権限を持つユーザはダッシュボードをカスタマイズできます。たとえば、ボリューム データ ビューの横にアプリケーション パフォーマンス データのビューを配置することにより、問題のトラブルシューティングを 1 つのページで行うことができます。

事前定義のダッシュボードは、ワークフロー内に整理されています。トップ N ビューから、個別のデバイスなど、絞り込まれたコンテキストから得られる詳細なメトリックにドリルダウンできます。標準で提供されるワークフローによって、ユーザは参照しているメトリックに関連のあるデータに移動されます。たとえば、インターフェース使用率のビューからドリルダウンして、廃棄のビューを参照できます。

カスタム グループを作成することにより、サイト、デバイス、またはインターフェースの特定のセットに関するデータを表示できます。グループセレクタ (左上にある [変更] リンク) を使用して、これらのグループをダッシュボードに適用できます。特定のグループ化に対するデータを分析するためにダッシュボードの「コンテキスト」を変更することができます。また、管理対象アイテムまたはアイテム グループを選択し、選択されたメトリック ファミリーおよびタイムフレームに対してオンデマンドのレポートを生成できます。

グループのデータが表示されるビューには、データソースからのロールアップデータが含まれます。1つの管理対象アイテムに関するデータビューでは、通常データソースに直接ドリルダウンするためのパスが提供されています。Single Sign-On機能を使用すると、ダッシュボードからデータソースのインターフェースに移動できます（ただし、ユーザアカウントに「データソースへのドリルイン」役割権限がある場合のみ）。

詳細情報:

[ダッシュボードおよびレポート](#) (P. 19)

ダッシュボード ページの表示

[ダッシュボード] タブから CA Performance Center レポート インターフェースにアクセスできます。ダッシュボードは、さまざまなソースからのデータのビューを含むカスタマイズ可能なページです。役割の権限で許可されている場合、現在のダッシュボードを電子メールメッセージまたは PDF としてエクスポートできます。

CA Performance Center にログインしたときに表示される最初のページは、デフォルトのダッシュボードです。

次の手順に従ってください:

1. メインツールバーの [ダッシュボード] タブの上にマウス ポインタを置きます。

レポート カテゴリに対応する一連のメニューが表示されます。

注: ユーザアカウントの役割に割り当てられているメニューのみが表示されます。

2. いずれかのメニューからダッシュボードを選択します。

ダッシュボードを表示するためにページがリフレッシュします。

デフォルトでは、最近収集されたデータがページ上のビューに反映されます。

レポート ページのタイプ

ダッシュボードの 2 つのカテゴリは、デフォルトで、またはカスタマイズを通じて使用可能です。

- サマリ ページは、管理対象アイテムのグループの平均など高レベル情報を提供します。サマリ ダッシュボードは、選択されたコンテキストに関連する、より詳細なページへのドリルダウンパスをしばしば提供します。
- コンテキスト ページは、単一のルータまたはサーバなど絞り込んだコンテキストから特定の焦点を絞ったパフォーマンスまたはステータスデータを提供します。これらのページは、[サマリ] ダッシュボードのドリルダウンリンクまたはタブから利用可能です。

サマリ ダッシュボードの詳細ビューへドリルインするには、以下の手順のいずれかを実行します。

- アイテムを右クリックして、表示するコンテキスト ページを選択します。
- アイテムをクリックして、デフォルトのコンテキスト ページを開きます。

注: 役割権限には、ビューにドリルダウンする機能が含まれている必要があります。

コンテキスト ページのデフォルトセットは、個々のデバイス、インターフェース、およびサーバに対して利用可能です。これらのページにはカスタマイズ可能なタブのセットが含まれており、これを使用して、選択した管理対象アイテムの特定のコンテキスト データへアクセスすることができます。たとえば、ルータのコンテキストには、[ヘルス]、[利用率]、[エラー] のデータ タブが含まれます。

ファクトリ ダッシュボード

管理者が作成したカスタム ダッシュボードに加えて、複数のファクトリ（事前定義済み）ダッシュボードが利用可能です。ログインすると、ユーザアカウントに割り当てられているメニューにすべてのダッシュボードが表示されます。[ダッシュボード] タブの上にマウス ポインタを置いて、アクセスできるダッシュボードの全リストを表示します。

新規のデータ ソースを登録すると、そのデータ ソース固有のファクトリダッシュボードのセットが送信されます。必要な役割の権限がユーザアカウントにある場合、ダッシュボードを編集でき、自分のユーザアカウントに変更を保存できます。

作成または変更したダッシュボードは [マイ ダッシュボード] メニューに表示されます。

コンテキスト ページ ナビゲーション

ダッシュボードから、個々の管理対象アイテムに関する詳細情報へ頻繁にアクセスできます。大半のダッシュボードは、時間ごとのロールアップやアイテム グループの平均などのサマリ データのビューで構成されています。データ ソースから追加のデータを利用できる場合は、ダッシュボードのページでリンクされているアイテムをクリックして、コンテキスト ページへドリル ダウンすることができます。

注: ビューへのドリル ダウンを実行するための役割権限が必要です。

コンテキスト ページ上のビューには、限られたコンテキストからのフィルタされたデータ（単一の管理対象アイテムのデータのビューなど）が表示されます。このリンクを使用して、特定のデータ、およびパフォーマンス問題のソースにおける特定のデータおよびホームへドリル ダウンします。

いくつかのデータ ソースのデータ ビューで、テーブル ビューのアイテム名を右クリックしてメニューにアクセスすることもできます。たとえば、[インベントリ] セクション内のアイテム名に対応するリンクを右クリックします。メニューを使用して、より詳細なデータが含まれている、関連コンテキスト ページを選択することができます。

最終的には、いくつかのコンテキスト ページに、詳細データの追加ページのタブが含まれています。タブをクリックして、選択した管理対象アイテムまたはアイテムのタイプによってフィルタされたデータを表示します。


デバイス名の表示

事前定義済みの管理者の役割を持ったユーザは、デバイス名のエイリアスを定義できます。エイリアスは、必要に応じて CA Performance Center ビューに表示されます。

デバイスエイリアスは、CA Performance Center 内の関連付けられた管理対象アイテムに適用されるユーザ設定名です。エイリアスが定義されていない場合、検出されたデバイス名が表示されます。エイリアスを使用する場合でも、インターフェースまたはデバイスのコンテキスト ページの [詳細] タブで、検出された名前を参照できます。

ビューオプション

多くのビューが、検索機能とビューを変更可能なその他の設定を備えています。ほとんどのデータ ビューで、フィルタリングと [タイムフレーム](#) (P. 29) オプションに加えて、以下のオプションを使用できます。

- タイトルや重大度カテゴリの変更など、ビュー設定の編集 .
- テーブル ビューの別の「ページ」を選択することによる、より多くのデータの参照。
- 「ページ」単位で表示されるアイテム数の増減。
- データが非表示になるようにするためのビューの折り畳み。
- ビューに表示されるデータに関する [管理対象アイテム コンテキストの変更](#) (P. 31)。

注: 「共有ビューへの変更の保存」の役割の権限を持つユーザは、ビューの変更を自身のユーザ アカウントに保存できます。この変更はログアウト後も残ります。ただし、他のユーザはビューに対する変更を参照できません。

その他のビューオプションは選択されたビューによって異なります。利用可能なオプションは形式とデータソースに依存します。

トレンドビューオプション

コンテキストページで利用可能なトレンドビューでは、グラフに表示されるトレンドラインを迅速かつ簡単に変更できます。マルチトレンドビューには、以下のオプションも適用されます。

- グラフの凡例内のメトリックを右クリックし、[非表示]を選択してビューから削除します。
- 他のすべてのメトリックを除外するには、凡例内のメトリックを右クリックして[フォーカス]を選択します。
- [ズーム機能](#) (P. 28)を使用して、正確なタイムフレームにフォーカスを絞り込みます。

トレンドビューには、パフォーマンスレベルまたはしきい値を視覚的に表示するために「目標ライン」を追加するオプションもあります。目標ラインの値やラベルを指定できます。また、選択されたトレンドビューで目標ラインの表示/非表示を設定できます。

テーブルビューオプション

テーブルビューでは、個々のアイテムの詳細データにドリルダウンできます。長いアイテムリストからメトリックを参照するには、ページ機能を使用します。ビューのサイズ、および1ページ当たりのテーブル行数を増やすには、[1ページあたりの最大数]の値を増加させます。

テーブルのデータ列を選択したメトリックで並べ替えたり、含める列を選択することもできます。並べ替えるテーブル列をクリックします。列の上にある白い矢印を使用して、テーブル列オプションのメニューにアクセスできます。列を選択して、デフォルトでテーブルで有効になっているメトリックを有効または無効にします。

ブラウザビューオプション

ブラウザビューは、選択したレポートページに任意のURLを追加できる一意のビュータイプです。このビューを使用して、ネットワークパフォーマンスビューと共に外部要因を比較できます。また、ブラウザビューによって、内部および外部データを動的に更新できます。

世界の出来事、悪天候などの複数の外部要因は、ネットワークおよびサーバのパフォーマンスに影響を及ぼす場合があります。単一のレポートページに、パフォーマンス データ ビューと共に天気図とニュース ヘッドラインを並べて表示する機能により、ネットワーク パフォーマンスのパターンをよりよく理解することができます。

デバイス管理オプション

ビューに Data Aggregator のデータが表示されない場合、このオプションを使用して Data Aggregator の [管理] ページに直接ドリルダウンし、監視対象のデバイスおよびアイテムのトラブルシューティングを行うことができます。

詳細情報:

[ビューのデータ コンテキストの変更 \(P. 31\)](#)

[ビュー用の URL の生成 \(P. 39\)](#)

ダッシュボードのタイム フレームの変更

表示しているダッシュボードのタイム フレームを変更できます。より早い時刻または別の日付からのパフォーマンス データを参照するためにタイム フレームを変更します。

タイム フレームの変更は、パフォーマンス問題のトラブルシューティングに役立ちます。たとえば、過去のデータに異常がある場合、タイム フレームを変更して過去 7 日分のデータを表示することができます。タイム フレームは、同じ問題が繰り返し発生しているかどうかを判断するのに役立ちます。

ダッシュボードのタイムフレームを変更すると、それがページ上のすべてのビューとそのウィンドウ内のすべてのダッシュボードに適用されます。ただし、複数のウィンドウにダッシュボードを表示して、ダッシュボードごとに別々のタイムフレームを適用できます。

以下の手順に従います。

1. [ダッシュボード] タブでダッシュボードを選択します。
2. ツールバー上で以下の時刻オプションと日付オプションの一部をクリックして選択します。

期間ドロップダウンリスト

事前に定義されたデータのタイムフレームを選択できます。

デフォルト：過去1時間。

戻るボタン

データのタイムフレームを現在の間隔（過去1日や過去1時間など）の1つ分だけ後ろにずらします。

日付とカレンダーのドロップダウンリスト

カレンダービューからデータの開始日と終了日を選択できます。

時刻ドロップダウンリスト

15分間隔のリストから開始時刻と終了時刻を24時間形式で選択させます。

進むボタン

データのタイムフレームを現在の間隔（過去1日や過去1時間など）の1つ分だけ先にずらします。

3. カスタムタイムフレームを定義するには、以下の手順の1つ以上を実行します。
 - 開始日をクリックして、表示されたカレンダーから新しい開始日を選択します。
 - 終了日をクリックして、表示されたカレンダーから新しい終了日を選択します。
 - 開始時間または分をクリックして、ドロップダウンメニューから新しい時間または分を選択します。
 - 終了時間または分をクリックして、ドロップダウンメニューから新しい時間または分を選択します。

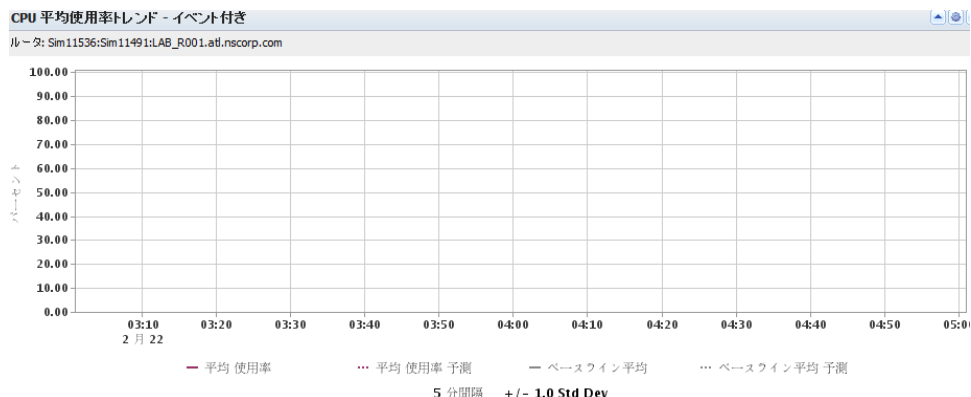
4. [設定] をクリックします。
ページが更新され、ビューに表示されたデータに新しいタイムフレームが反映されます。
5. (オプション) 時間を前後にスクロールします。タイムスタンプの両側にある [戻る] および [進む] ボタンを使用して、現在の間隔の 1 単位ずつタイムフレームを移動します。
過去のデータを表示している場合は、左方向矢印をクリックすると、時間が 1 日分だけ過去に戻ります。また、[最新] をクリックすると、最近収集されたデータが表示されます。

タイムフレームへのズームインによる絞り込み

ズーム機能の使用により、小さな範囲のデータポイントを、より詳しく見ることができます。タイムフレームの「ズームイン」機能は、トレンドグラフが含まれているビューで使用できます。この機能は、棒グラフ、テーブル、またはゲージでは利用できません。

次の手順に従ってください:

1. [ダッシュボードページに移動します](#) (P. 21)。
2. (オプション) 必要に応じて、タイムフレームを変更します。
3. 線グラフが含まれているビューを選択します。
注: 棒グラフ、テーブル、またはゲージではズームインできません。
4. マウスを使用してクリックおよびドラッグして、グラフの領域を選択します。



少なくとも 30 分を超える領域を選択します。有効な選択を示すための黒い線が表示されます。

マウス ボタンを放すと、選択したカスタム期間が対象のビューに適用されます。

5. (オプション) 前のタイムフレームに戻るには、ビューのすぐ下にある [元に戻す] をクリックします。

ビューがリフレッシュされます。前のタイムフレームがビューに適用されます。

6. (オプション) [ダッシュボードに適用] をクリックします。

ダッシュボード ページがリフレッシュされます。新しい期間が、対象のダッシュボード ページ上のすべてのビューに適用されます。

カスタム タイムフレームの設定

対象のダッシュボードに表示されるパフォーマンス データに対する正確なタイムフレームを選択できます。期間セレクタを使用して、日付、開始時刻、および終了時刻を選択できます。

次の手順に従ってください:

1. [ダッシュボードに移動します](#) (P. 21)。
2. ダッシュボード ページの左上の日付のリンクをクリックして、カレンダー ペインを開きます。
3. カレンダー ペイン上で新しい期間の開始日および終了日を選択します。
4. 時間または分のリンクをクリックして、新しい期間の開始時間および終了時間を指定します。
5. [設定] をクリックします。

カスタム タイムフレームは、表示しているダッシュボードに適用されます。

ダッシュボードのコンテキストの変更

データ用の別のデータ コンテキストを選択することにより、ダッシュボードをカスタマイズできます。すべてのダッシュボードに表示されるビューのデフォルト グループの設定は、[すべてのグループ] です。標準のダッシュボードに別のグループを選択すると、ページ上のすべてのビューに新しいフィルタが適用されます。単一のルータに関する詳細などのコンテキスト ページから、別の管理対象アイテムをビュー コンテキストとして選択できます。

また、複数のウィンドウにダッシュボードを表示して、ダッシュボードごとに別々のデータ コンテキストを適用できます。

以下の手順に従います。

1. 変更するダッシュボードに移動します。
2. (オプション) 必要に応じて、タイム フレームを変更します。
3. 期間セレクタの上にある [変更] リンクをクリックします。

[変更]リンク

レポート用の別のグループまたは管理対象アイテム コンテキストを選択できます。

ダイアログ ボックスが開き、フィルタ オプションが表示されます。

4. クリックして別の管理対象アイテムを選択します。または、グループ ツリーのノードを展開してグループ コンテキストを選択します。
新しいアイテムまたはグループのデータがビューに表示されます。
5. [OK] をクリックします。

ページ上のすべてのビューが新しいデータ コンテキストを反映するように更新されます。変更はログアウトするまで適用されます。変更がログインセッション間でも保持されるようにコンテキストを変更するには、ダッシュボードを編集します。

6. (オプション) 別のブラウザ インスタンスを開いて、ログインし、同じダッシュボードを開きます。

これで、2 種類のアイテム コンテキスト設定で同じビューを比較できます。

詳細:

[ビューのデータ コンテキストの変更 \(P. 31\)](#)


ビューのデータ コンテキストの変更

1つのダッシュボード上で1つのビューのコンテキストを変更できます。すべてのダッシュボードに表示されるビューのデフォルトグループの設定は、[すべてのグループ]です。ただし、フィルタするためのページレベルコンテキストは、他のグループを使用して変更できます。

ビューのタイプに適切なフィルタを使用することで、ビューまたはページのコンテキストを変えることができます。別の管理対象アイテムまたは別の管理対象アイテムのセットからのデータを表示するようにコンテキストを変更します。

ビューのコンテキストの変更はパフォーマンス問題のトラブルシューティングに役立ちます。たとえば、調査している問題に関係がありそうなパフォーマンスデータがビューに表示されていないとします。同じタイムフレームからのデータを比較するために別の管理対象アイテムを選択できます。物理サーバのディスク使用率のビューを編集して、代わりに仮想マシンのディスク使用率を表示できます。または、グループ構造を利用してグループコンテキストを変更することにより、別の地理的地域からのデータを比較できます。

以下の手順に従います。

1. 変更するビューが含まれるダッシュボードを開きます。
2. (オプション) 必要に応じて、タイムフレームを変更します。
3. コンテキストを変更するビュー内の [編集] アイコン  をクリックして、メニューから [編集] を選択します。

ビューの [設定] ダイアログ ボックスが開きます。

4. 新しいコンテキストを反映するようにビューのタイトルまたはサブタイトルを変更します。

利用可能なコンテキスト タイプは、ビューのタイプによって異なります。

5. 選択したコンテキスト タイプに応じて、以下のステップのいずれかを実行します。


- [グループ] フィルタ ツリー内のフォルダをクリックして展開し、データをビューに表示するグループを選択します。
- データをビューに表示する管理対象アイテムを探して、テーブル内のリンクをクリックします。

6. [変更を適用] ドロップダウンから変更の範囲を選択します。以下のいずれかのオプションを選択します。

- すべてのユーザ用のデフォルト：すべてのユーザ アカウントに対する変更がこのビューのデフォルトとして保存されます。
- すべてのテナント ユーザ用：テナントに関連付けられたユーザのみが利用可能になるように、変更を保存します。
- マイ ユーザ アカウント：ユーザ アカウントに対する変更がこのビューのデフォルトとして保存されます。
- 現在のマイ セッション：ログアウト時に変更が破棄されます。

注：これらのオプションが使用できるかどうかはユーザ アカウントの役割の権限に依存します。

7. [保存] をクリックします。

ビューが新しいコンテキストからのデータで更新されます。ロック アイコン  および選択されたコンテキストの名前がビューのサブタイトルに表示されます。このアイコンは、このビューがもはやダッシュボード ページに設定したコンテキストには準じておらず、選択したコンテキストに固定されていることを示します。

ビューのコンテキストをページ レベル コンテキストに変更するには、上記手順の手順 5 で [すべてのグループ] を選択します。

[ダッシュボードのコンテキストを変更 \(P. 30\)](#)することもできます。これにより、選択されたグループまたは管理対象アイテムがフィルタとしてページ上のすべてのビューに適用されます。

他のユーザとのデータの共有

ダッシュボードとビューを同僚と共有するための複数のオプションがあります。ダッシュボードを PDF 形式で静的レポートにエクスポートできます。または、ダッシュボードから独自の公開スケジュールでレポートを作成できます。レポートの印刷や電子メールの送信ができます。定期的にレポートを自動的に送信するスケジュールをセットアップできます。

ビューを個別にエクスポートすることもできます。イントラネットサイトなどの Web ページ上でビューを公開します。または、ビューのデータを CSV 形式でファイルにエクスポートします。すべてのデータエクスポートオプションに対して、特定のユーザアカウントの役割の権限が必要です。

レポートの印刷

ユーザアカウントに必要な役割の権限が付与されている場合は、現在のダッシュボードの内容を印刷されたレポートとしてエクスポートできます。印刷機能では、最初に、現在のダッシュボード ページが PDF 形式で表示されます。

以下の手順に従います。

1. レポートとしてエクスポートする [ダッシュボードに移動](#) (P. 21) します。
2. (オプション) [タイムフレームを変更](#) (P. 26) します。
3. ツールバーの [印刷] リンクをクリックします。

レポートが PDF としてエクスポートされます。通常は、別のブラウザウィンドウに表示されます。

データには現在のダッシュボード設定が使用されます。

4. (オプション) PDF ビューア内のオプションを使用して、PDF をローカルコンピュータに保存します。
5. ブラウザ ツールバーの [印刷] アイコンをクリックします。
レポート ページがローカル デフォルト プリンタに送信されます。

電子メールでレポートを送信

ユーザアカウントに必要な役割の権限が付与されている場合、現在のダッシュボードの内容を電子メールメッセージに添付されたレポートとしてエクスポートできます。電子メール機能では、受信者の電子メールアドレスに加えて、電子メールメッセージの件名も指定できます。レポートはPDF形式のドキュメントとしてメッセージに添付されます。

電子メールでレポートを送信するには、ユーザアカウントに、「電子メールでレポートを送信」という役割の権限を持つ役割を付与する必要があります。また、管理者は電子メールサーバを設定する必要があります。

以下の手順に従います。

1. 電子メールメッセージで送信するダッシュボードを開きます。
2. (オプション) 必要な場合はタイムフレームを変更します。
3. ツールバーの [電子メール] アイコンをクリックします。
4. 以下のフィールドに情報を入力します。

送信先

レポートを送信する電子メールアドレスを指定します。次の標準形式を使用します。

`<name>@<domain>`

注: 複数のアドレスはカンマまたはセミコロンで区切ります。または、複数の受信者を含む電子メールエイリアスを入力できます。

件名

電子メールの [件名] 行に表示されます。電子メールレポートを説明します。

例: ダッシュボードタイトルや、データがレポートに含まれる任意のコンポーネント。

メッセージ

(オプション) 電子メールで送信するレポートに付随するメッセージです。

5. 電子メールメッセージをすぐに送信するには、[今すぐ送信] をクリックします。

また、電子メールメッセージを定期的に送信するスケジュールを作成する場合は、[スケジュール間隔]を選択します。詳細については、「[定期電子メールスケジュールのセットアップ \(P. 35\)](#)」を参照してください。

6. [OK] をクリックします。

CA Performance Center サーバが、現在のダッシュボードから PDF を生成して、電子メールメッセージに対する添付ファイルとしてレポートを送信します。

定期電子メールスケジュールのセットアップ

ダッシュボードごとに、レポートのデータをエクスポートおよび送信するためのオプションがあります。ユーザアカウントに「電子メールでレポートを送信」の役割の権限を付与する必要があります。

ただちにレポートを電子メールで送信したり、定期的に電子メールで送信されるレポートのスケジュールを作成したりすることができます。たとえば、キャパシティ計画のために、毎週、インターフェース使用率レポートを IT 部門の同僚に電子メールで送信できます。

注: 管理者は、この機能を有効にする電子メールサーバを指定する必要があります。

以下の手順に従います。

1. CA Performance Center にログインして、[ダッシュボード] タブ上のメニューからレポートを選択します。
2. [電子メール] をクリックします。
[電子メールダッシュボード] ダイアログボックスが表示されます。

- 以下のフィールドに入力します。

ダッシュボード

ダッシュボードの名前を特定する読み取り専用フィールド。ダッシュボード名が、電子メールに添付されているレポートのファイル名に表示されます。また、ダッシュボード名は [[電子メールスケジュールの管理 \(P. 38\)](#)] ページの電子メールスケジュールのリストにある [ダッシュボード] 列にも表示されます。

送信先

レポートを送信する電子メールアドレスを指定します。次の標準形式を使用します。

<name>@<domain>

件名

電子メールの [件名] 行に表示されます。電子メール レポートを説明します。

例：ダッシュボードタイトルや、データがレポートに含まれる任意のコンポーネント。

メッセージ

(オプション) 電子メールで送信するレポートに付随するメッセージです。

- 以下のスケジュール オプションのいずれかを選択します。

今すぐ送信

ただちに電子メール メッセージを送信します。

毎日送信

電子メール メッセージを 1 日 1 回送信します。有効な場合は、レポートが送信される曜日を選択するためのチェック ボックスが表示されます。

デフォルト： 平日 (月曜日～金曜日) のログインユーザのタイムゾーンで 00 時 30 分に電子メール レポートを送信します。レポート内のデータは過去 24 時間を反映しています。

毎週送信

電子メールメッセージを1週間に1回送信します。有効な場合は、レポートを送信する曜日を選択できます。

デフォルトで、この週次スケジュールでは、毎週日曜日のユーザのタイムゾーンで01時00分に電子メールレポートが送信されます。

デフォルト: レポート内のデータは過去7日間（土曜日～日曜日）を反映しています。

週の終了曜日

週が終わる曜日を決定します。週の始まりは7日間が含まれるように自動的に調整されます。

毎月送信

電子メールメッセージを1か月に1回送信します。毎月の最初の日曜日に、管理コンソールのタイムゾーンで01時00分にレポートを送信します。レポート内のデータは過去30日間を反映しています。

電子メールの送信時刻

メッセージが送信される時刻を決定します。月の始まりは30日間が含まれるように自動的に調整されます。

毎四半期送信

電子メールメッセージを四半期に1回送信します。毎四半期の最初の日曜日に、管理コンソールのタイムゾーンで01時00分にレポートを送信します。レポート内のデータは過去3か月間を反映しています。

第1四半期の終了

四半期が終わる月を決定します。四半期の始まりは3か月が含まれるように自動的に調整されます。他のすべての四半期も最初の四半期から始まるように調整されます。

毎年送信

電子メールメッセージを1暦年に1回送信します。[年の終了]パラメータに対して選択した月の最後の日にレポートを送信します。レポート内のデータは過去12か月間を反映しています。

年度の終了月

年が終わる月を決定します。年の始まりは365日間が含まれるように自動的に調整されます。

電子メールの送信

選択された時刻に電子メールメッセージを送信します。

5. [保存] をクリックしてスケジュールを保存します。

レポートはPDFファイルとして保存され、電子メールメッセージに添付されます。ただちに送信される場合と選択されたスケジュールに従って送信される場合があります。

電子メール スケジュールの管理

必要な役割の権限を持つユーザは、定期的に電子メールでレポートを送信するスケジュールをセットアップできます。選択されたダッシュボードデータが、レポート形式でエクスポートされ、定期スケジュールに従って指定されたユーザに送信されます。

電子メールをスケジュールする役割の権限を持っているユーザは、他のユーザの電子メールスケジュールを管理することもできます。

次の手順に従ってください:

1. 「電子メールでレポートを送信」という役割の権限を持ったユーザでログインします。
2. [管理] - [システム設定] を選択し、[スケジュール済み電子メール] をクリックします。

[電子メール スケジュールの管理] ページが表示されます。

このページには、現在の電子メール スケジュールのリストが表示されます。

注: テナント管理者は自分のテナントに関連付けられたアイテムしか参照できません。

3. 変更する電子メール スケジュールを選択して、[編集] をクリックします。
[電子メールでダッシュボードを送信] ダイアログ ボックスが表示されます。
4. 電子メール スケジュールの設定を表示または変更します。詳細については、「[定期電子メール スケジュールのセットアップ \(P. 35\)](#)」を参照してください。
5. [保存] をクリックします。

ビュー用の URL の生成

ビューをエクスポートすることにより、ダッシュボードにアクセスできない同僚とそのビューを共有できます。CA Performance Center は、オンデマンドで、選択されたデータ ビューを作り直すための特別な **Uniform Resource Locator (URL)** を生成できます。この URL を使用すれば、同僚とパフォーマンス データを共有するためのビューを Web ページまたはイントラネット サイトに追加できます。[URL の生成] 機能を使用すれば、容量計画やインフラストラクチャ アップグレードの決定に他の人を参加させることや、ステータス情報を共有することができます。

セキュリティ トークンは各 URL に含まれています。このトークンは、URL 生成時にログインしていたユーザに基づいています。したがって、エクスポートされたビューにアクセスできるユーザは、URL をエクスポートした元のユーザが参照できるのと同じデータを参照できます。ただし、トークンは初期のビューにのみ適用されることに注意してください。エクスポートされたビューにアクセスしているユーザがドリルダウンしようとする、認証を求められます。ドリルダウンは、認証が成功した場合のみ可能です。これは、ビューにドリルダウンする役割権限を持つユーザアカウントにのみ許可されています。また、選択された期間の経過後にトークン(ビュー)が期限切れになるようにするオプションが含まれています。

次の手順に従ってください:

1. 「ビューから URL を生成」という役割の権限を持ったユーザとしてログインします。
2. URL を生成するビューが含まれるダッシュボードに移動します。

3. ビュー上の [編集] アイコン  をクリックして、[URL の生成] を選択します。

[URL の生成] ダイアログ ボックスが表示されます。URL が [URL] フィールドに表示されます。

4. エクスポートされたビューに関する以下の必須パラメータを有効または無効にします。

コンテナの表示

周りにコンテナを備えたチャートまたはグラフを表示します。コンテナには、チャートまたはグラフの周りのタイトルバーや黒枠内のビューのタイトルが含まれます。

デフォルト：有効

著作権

オンにした場合、Web ページの著作権情報を表示します。

ドリルダウン

ビューから、より詳細なデータの基になるデータ ソースにドリルダウンできるようにします。ユーザは、データ ソースに対する最小限の製品権限とこの機能を使用するための「データ ソースへのドリルイン」の役割の権限を持っている必要があります。

デフォルト：有効

5. 以下のタイムフレームのオプションから選択します。

時間オプション

エクスポートされたビュー内のデータのタイムフレームを変更できます。[開始時刻] フィールドと [終了時刻] フィールドにカスタムタイムフレームを入力するか、ドロップダウンリストから [時間範囲] を選択します。

トークン期限オプション

ビュー期限を制御します。デフォルトの、期限 [なし] は、エクスポートされたビューを無期限で表示します。

ビューを期限付きにする場合は、[トークン期限] リストからタイムアウト期間を選択します。URL には、指定されたタイムアウト期間の経過後にビューが期限切れになる暗号化されたトークンが含まれます。

このトークンにより、生成されたビューを使用するユーザが、より多くのデータにドリルダウンできるようになります。

6. (オプション) 選択したオプションでビューがどのように見えるかを確認するには、[プレビュー] をクリックします。
7. ページの最上部に表示された URL をクリップボードにコピーします。
8. ビューを表示させる場所にその URL を貼り付けます。
9. [OK] をクリックします。
10. [URL の生成] ウィンドウが閉じます。

第 5 章: イベント

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

- [イベント](#) (P. 43)
- [イベントタイプ](#) (P. 44)
- [イベントリスト ビュー](#) (P. 44)
- [イベント詳細](#) (P. 46)
- [イベントプロパティ](#) (P. 47)
- [イベント保存の管理](#) (P. 48)
- [通知](#) (P. 49)

イベント

イベントは、ネットワーク インフラストラクチャにおける瞬間的な出来事によってトリガされるメッセージで、通常は重大な事象が発生したことを示します。イベントはいくつかの理由でレポートされます。データがしきい値を超えた場合、または設定変更が検出された場合にレポートされます。 [イベントの表示] ダッシュボードにイベントのリストを表示します。

イベントのトリガになるデータがレポートされると、**CA Infrastructure Management** のイベント マネージャ コンポーネントがイベント データを処理します。イベント マネージャは **CA Spectrum** に統合されています。このため、**CA Spectrum** に表示できるアラームは、通常はイベントが生成されます。各イベントに割り当てられた重大度レベルは、**CA Spectrum** 内のイベント設定に応じて異なります。

イベントはネットワーク環境のヘルスおよびステータスの監視に関する情報を提供します。各イベントには、トラブルシューティングに関する有用なデータが含まれています。

イベントタイプ

各イベントにはイベントタイプが含まれており、多くの場合、イベントサブタイプも含まれています。この情報は、CA Infrastructure Managementが一連のルールに従ってイベントを処理する際に役立ちます。インフラストラクチャのステータスおよびヘルスについて必ず通知されるように、CA Spectrumにこれらのルールを設定できます。

イベントは以下のタイプとして分類できます。

- ポーリング イベント - ポーリングまたはポーリングデータの分析から発生します。
- トラップ イベント - トラップ入力から発生します。
- しきい値 イベント - デバイス上のしきい値違反によってトリガされます。管理者は CA Spectrum にしきい値を設定できます。
- 設定変更 - 作成、削除、または変更されたアイテムに対してレポートします。
- 不明 イベント - 発生源が不明なイベントを示します。
- 任意 - イベント マネージャにサブMITTされたすべてのイベントについて通知するワイルドカード イベント タイプを表します。

管理者は、CA Infrastructure Management の管理にカスタム イベント タイプも定義できます。

イベントリストビュー

[イベント] ビューには、最近レポートされたイベントのリストが含まれています。

デフォルトでは、[イベント] ビューに以下の情報が含まれています。

日付/時刻

イベントがイベント マネージャにレポートされた日付と時刻。

名前

パフォーマンスデータに関連付けられている管理対象アイテムを識別します。

アイテムタイプ名

管理対象アイテムのタイプを識別します。

アイテムサブタイプ

示された管理対象アイテムのサブタイプ。デバイスのサブタイプとしてルータまたはスイッチなどアイテムタイプをさらに識別します。

イベントタイプ

イベントマネージャへレポートされたデータソースのイベントタイプ（しきい値）。

イベントサブタイプ

イベントタイプをより厳密に指定します。利用できる場合は、イベントサブタイプによってイベントをさらに分類できます。イベントサブタイプを使用すると、イベントの関連するグループへイベントデータを並べ替えることができます。たとえば、しきい値イベントのサブタイプには、インターフェース、ストレージおよびCPUが含まれます。

説明

発生したイベントを説明します。通常、イベントソースがリストされます。

デバイス名

イベントがレポートされたデバイスのIPアドレスまたはホスト名。

詳細:

[イベント詳細](#) (P. 46)

イベント詳細

[イベント]ビューのいずれかのイベントをクリックして選択し、[詳細]をクリックします。[イベント詳細]ビューには、そのイベントのソース、期間、関連付けられている MIB 変数などの詳細な情報が示されます。

デフォルトでは、[イベント詳細]ビューに以下の情報が含まれています。

イベント ID

イベントを識別するために、内部で割り当てられた値。

イベントタイプ

イベント マネージャへレポートされたデータ ソースのイベント タイプ (しきい値)。

イベント サブタイプ

イベント タイプをより厳密に指定します。利用できる場合は、イベント サブタイプによってイベントをさらに分類できます。イベント サブタイプを使用すると、イベントの関連するグループへイベント データを並べ替えることができます。たとえば、しきい値イベントのサブタイプには、インターフェース、ストレージおよび CPU が含まれます。

発生日

イベントがいつレポートされた日付と時刻。

説明

発生したイベントを説明します。通常、イベント ソースがリストされます。

デバイス名

パフォーマンス データのソースであった管理対象アイテムを識別します。

プロパティ名

イベント プロパティの名前。詳細については、「[イベント プロパティ \(P. 47\)](#)」を参照してください。

値

イベントがレポートされたときに、示されたイベント プロパティに関連付けられている値。

イベントプロパティ

[イベント詳細] には以下のイベントプロパティが含まれる場合があります。イベントプロパティはデータソースによってレポートされます。

説明

使用されたイベントプロファイルを説明します。

イベントルール

名前、ID および説明を持つルールを識別し、イベントがどのように生成されるかについてパラメータを定義します。

イベントプロファイル ルール

イベント ルールの名前を示します。

イベントプロファイルのルール ID

イベントプロファイル内の一意の ID。

イベントプロファイルのルール説明

イベントルールについて説明します。

イベントプロファイルのルール タイプ

ルールのタイプを示します。有効なタイプの値：

定数： ExceedThreshold および ClearThresholds は定数値を反映します。

標準偏差： ExceedThreshold および ClearThreshold は、平均からの標準偏差単位について定義されます。

イベントプロファイル有効

ルールが有効かどうか定義します。

イベントプロファイルの技術要素

イベントルールによって参照される技術認定の名前を定義します。

イベントプロファイルのパフォーマンス メトリック

評価するメトリック ファミリから属性 (メトリック)。

イベントプロファイルの超過演算子

パフォーマンス メトリックと超過しきい値を比較するために使用される比較演算子。

イベントプロファイルの超過しきい値

イベントを生成するために、超過演算子を使用したパフォーマンス メトリックと比較するために使用する値。

定数： 定数値を反映します。

標準偏差： 平均からの標準偏差の単位数を表します。

イベントプロファイル期間

(設定またはクリアに対して) 条件が **true** になるために必要な秒数。

[イベントプロファイル]ウィンドウ

(設定またはクリアに対して) 条件を評価するために必要な秒数。

イベントプロファイルのクリア演算子

パフォーマンス メトリックと、イベントをクリアするためのクリアしきい値を比較するのに使用する比較演算子。

イベントプロファイルのクリアしきい値

イベントをクリアするためのクリア演算子を使用してパフォーマンス メトリックを比較するのに使用する値。

定数： 定数値を反映します。

標準偏差： 平均からの標準偏差の単位数を表します。

アイテムの作成時間

アイテムが作成された日付と時間を表します。

アイテムの説明

アイテムを説明します。

アイテム名

アイテムの名前を特定します。

イベント保存の管理

デフォルトでは、イベントはイベント マネージャ データベースに 30 日間保存されます。 イベントが保存される日数を編集できます。

次の手順に従ってください:

1. 以下のファイルを開きます。

```
/opt/CA/PerformanceCenter/EM/webapps/EventManager/WEB-INF/em.properties
```

2. **Event.Retention** の値を、データベースにイベントを保存する日数に設定します。変更を保存します。

3. コマンドラインを使用して、イベント マネージャ サービスを停止します。

```
service caperfcenter_eventmanager stop
```

4. コマンドラインを使用して、イベント マネージャ サービスを再起動します。

```
service caperfcenter_eventmanager start
```

新しいイベント保存値が有効になります。

注: イベント マネージャが実行されているプラットフォームに応じて、他の方法を使用してイベント マネージャを停止および開始できます。

通知

データ ソースからイベント マネージャに送信されたイベントに対して通知を設定できます。受信イベントは、通知条件に設定した状態に対して評価されます。条件を満たす場合のみ、イベント マネージャは通知アクションを実行します。イベントが通知をトリガしない場合、このイベントはイベントリストに表示されたままになります。

注: 通知をサポートするデータ ソースの詳細については、「[CA Performance Center Readme](#)」を参照してください。

ユーザが設定および受信できるのは、アクセス権があるグループ内のアイテムに対するイベントの通知のみです。

重要: 通知を作成する前に、送信トラップ ポート (通常は 162) で **SNMP** プロファイルを作成します。

以下の情報を考慮します。

- 通知はユーザに固有です。他のユーザの通知を見ることはできません。
- イベント通知を削除するアクションは、実際のイベントまたは将来のイベントに影響しません。

通知の作成/編集ウィザードでは、以下の通知タイプが利用可能です。

トラップ

CA Spectrum など、環境内の障害管理システムまたはネットワーク管理システム (NMS) にトラップ通知を送信します。複数の送信先をサポートします。最初の送信先は必須です。

既存のカスタマに互換性を提供するために、通知ウィザードでは 2 種類の MIB が利用可能です。

注: トラップ受信者はトラップを受信するように事前の設定が必要です。各送信先では、SNMP コミュニティおよび IPV4 送信先に関する独自の設定を行うことができます。トラップ形式の詳細については、トラップ受信者に対応する NMS ドキュメントを参照してください。

サポートされる役割: 管理者の役割を持つユーザ (グローバル管理者) がトラップ通知を設定できます。管理者には、イベントを作成するデータ ソースに対する製品権限も必要です。

電子メール

イベントが発生するかクリアされたときに、1 人以上の受信者に電子メール通知を送信します。電子メール内には、アラームをトリガしたデバイスまたはコンポーネントのコンテキスト ページへのリンクが提供されます。

サポートされる役割: [通知の作成] の役割を持つユーザと、管理者の役割および製品権限を持つユーザが電子メール通知を設定できます。ただし、最初に管理者の役割で SMTP サーバを指定する必要があります。

管理者は、CA Performance Center ユーザ インターフェースの [管理] - [通知] メニューから、通知を表示、作成、または削除できます。通知オプションが表示されるのは、イベント マネージャが有効であり、同期済みの [利用可能] 状態にある場合のみです。

注: デフォルト テナント管理者は、実際のユーザ コンテキストで作業することで、テナント管理者またはテナントユーザ用の通知を作成できます。テナント管理者またはテナントユーザとしてログインします。または、デフォルト テナント管理者はテナントを管理してユーザのプロキシを実行し、テナント範囲の通知を作成することができます。

代わりに、管理者はイベント マネージャ API を使用することもできます。次の URL を使用して、イベント マネージャ ホスト上のドキュメント インターフェースにアクセスします：

<http://hostname:8281/EventManager/webservice/notifications/documentation>

ユーザは、[マイ設定] - [通知] メニューから電子メール通知を作成できます。

詳細情報：

[nhLiveAlarm 形式をトラップに使用 \(P. 53\)](#)

[EventManager 形式をトラップに使用 \(P. 51\)](#)

EventManager 形式をトラップに使用

EventManager MIB は、トラップ通知をサポートしています。必要な場合、MIB ファイルは次の場所にあります。

InstallLocation/PerformanceCenter/PC/webapps/pc/mibs/netqos-em-mib

InstallLocation

CA Performance Center がインストールされたディレクトリです。

EventManager 形式が選択されると、送信されるトラップには以下の変数が含まれます。

netQosEventId

イベント マネージャがイベントに割り当てた識別子を指定します。

netQoSEventType

イベント タイプを指定します。

netQoSEventCategory

イベントを分類します。

値： 0 不明、1 障害、2 設定、3 アカウンティング、4 パフォーマンス、5 セキュリティ

netQoSEventSeverity

イベントの重大度を指定します。

値： 0 標準、1 不明、2 マイナー、3 メジャー、4 重大、5 使用不可

netQoSEventDescription

イベントの説明です。

netQoSEventState

イベントの現在の状態を指定します。各状態にはそれぞれ通知があります。

値： 0 オープン、1 確認済み、2 クローズ、3 クリア

netQoSEventOpenTime

UTC タイムスタンプを指定します (eventState タイムスタンプから)。

netQoSEventMapURL

値は使用できません。 "" 文字列が送信されます。

netQoSEventDetailsURL

値は使用できません。 "" 文字列が送信されます。

netQoSEventAssociatedItemURL

アイテムの Web ページへの URL を指定します。

netQoSEventItemName

アイテム名を指定します。アイテムごとに 1 つの通知があります。

最大長： 127 バイト

netQoSEventItemType

アイテムのタイプを指定します。

最大長： 32 バイト

netQoSEventItemSubtype

アイテムのサブタイプを指定します。

最大長： 32 バイト

netQoSEventItemIpAddress

アイテムの IP アドレスまたは空の文字列を指定します。

netQoSEventPropertyName

各プロパティに設定された 1 つの名前を指定します。イベント内の各プロパティに **PropertyName** があります。（プロパティはイベントタイプによって異なります。）

最大長： 128 バイト

netQoSEventPropertyValue

イベントのプロパティ値を指定します。イベント内の各プロパティに **PropertyValue** があります。（プロパティはイベントタイプによって異なります。）

nhLiveAlarm 形式をトラップに使用

nhLiveAlarm MIB は、トラップ通知をサポートしています。必要な場合、MIB ファイルは次の場所にあります。

InstallLocation/PerformanceCenter/PC/webapps/pc/mibs/concord-diagmon.mib

InstallLocation

CA Performance Center がインストールされたディレクトリです。

トラップ通知に nhLiveAlarm 形式を使用するときは、以下の制限に注意してください。CA eHealth トラップ MIB によって記述された変数値の多くは、旧バージョンの NetQoS Performance Center との統合から変更されました。

nhServerIp

値は使用できません。"" 文字列が送信されます。

nhServerName

値は使用できません。"" 文字列が送信されます。

nhServerPort

値は使用できません。 "" 文字列が送信されます。

nhElementIp

アイテムの IP アドレス、または IP アドレスが存在しない場合は "" を指定します。

nhElementName

アイテム名を指定します。

nhElementId

アイテムの CA Performance Center ID（グローバル ID）を指定します。

nhStartTime

イベントからのタイムスタンプを指定します。

nhDisplayStr

イベントからの MaxThresholdValue 変数の値を指定します。

nhGroup

値は使用できません。 "" 文字列が送信されます。

nhGroupList

値は使用できません。 "" 文字列が送信されます。

nhExceptionType

値は使用できません。 "" 文字列が送信されます。

nhVariable

イベント プロファイルルールの変数を指定します。

nhSeverity

イベントの重大度を指定します。

nhOpenViewSeverity

値は使用できません。 "" 文字列が送信されます。

nhProfile

イベント プロファイル名を指定します。

nhExceptionId

イベント ID を指定します。

nhTechType

値は使用できません。 "" 文字列が送信されます。

nhEventCarrier

値は使用できません。 "" 文字列が送信されます。

nhElementAlias

値は使用できません。 "" 文字列が送信されます。

nhComponent

値は使用できません。 "" 文字列が送信されます。

nhDescription

イベントの説明が含まれます。

nhAlarmOccurId

アラーム ID を指定します。

profileId

イベントプロファイル ID を指定します。

nhElementBaseType

アイテムのタイプを指定します。

第 6 章: グループの操作

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[グループ](#) (P. 57)

[グループのタイプ](#) (P. 58)

[マルチテナント展開のグループ](#) (P. 59)

[独自のカスタムグループの作成](#) (P. 62)

グループ

管理者は、CA Performance Center 内の管理対象アイテムを構成するためにカスタムグループ構造を作成できます。グループはフィルタのように動作して、レポートデータを有効に活用できます。カスタムグループを使用すると、組織構成の中で監視する必要があるアイテムを表示できます。

グループにより、ログインしたときにダッシュボードに表示するデータが決定されます。現在のダッシュボードにフィルタとして適用されるグループは、そのダッシュボードのグループコンテキストです。CA Performance Center に初めてログインすると、表示されるページにデフォルトの権限グループのコンテキストが反映されます。

デフォルトで別のグループのデータがダッシュボードに反映されるように、自身のユーザアカウントのデフォルトグループを変更できます。ダッシュボードや個別のビューに対するコンテキストを変更することもできます。

管理者がユーザアカウントの「マイ カスタム グループ」機能を有効にすると、そのユーザは独自のアイテムグループを作成できます。グループを作成したユーザのみに表示されます。

詳細情報:

[グループのタイプ](#) (P. 58)

[マルチテナント展開のグループ](#) (P. 59)

[独自のカスタムグループの作成](#) (P. 62)

グループのタイプ

グループは、階層ツリー構造で構成されます。グループ ツリーを使用すると、ユーザが組織内のサービス、デバイス、アプリケーション、場所およびユーザの関係、ポリシーおよび依存性を定義できます。以下のリストでは、グループ ツリー内のグループのタイプの概要について説明します。

システム グループ

読み取り専用グループで、データ ソースからの情報に基づいて **CA Performance Center** によって自動的に作成されます。これらのグループは編集できません（「ロック」記号で示されます）。ただし表示、ユーザ アカウントへの権限グループとしての適用、カスタム グループまたはサイト グループへのコピーは可能です。

カスタム グループ

階層レベルを作成し、アイテムをグループ ツリー内の論理関係に構成します。グループ ツリーのトップ レベルのカスタム グループは通常、ユーザの組織内の地理的、位相的、または機能的な部署を表します。より低いレベルのカスタム グループ（またはサブグループ）は通常、デバイス、サービスまたはアプリケーションなど管理対象アイテムのタイプを表します。または、これらのサブグループは、IT スタッフのジョブ機能を表すことができます。

管理者のみが、カスタム グループを作成し編集できます。管理者は、**CA Performance Center** ダッシュボードおよびビューのデータをフィルタします。ダッシュボードまたはビューのグループ コンテキストによって、表示されるデータが決定します。

サイト グループ

支社などサイトに基づく特別なカスタム グループか、または地域や都市など物理的な場所です。サイト グループを使用すると、**CA Performance Center** ダッシュボードにナビゲーション機能を作成し、サイト全体のビューを表示できます。サイト グループには [タイムゾーン] および [営業時間] パラメータが含まれており、1 日のうちビジネス上重要な時間のデータを優先して表示することができます。

また、ダッシュボードに適用する詳細なコンテキストも用意されています。たとえば、各サイトのサイト グループを作成すると、単一のダッシュボードで各サイトについて個別にレポートできます。企業の各データ センターやその他の主要なインフラストラクチャの場所に対して、サイト グループを作成することを強く推奨します。

グループ参照

システムグループまたはカスタムグループの読み取り専用コピーです。グループツリー内で別の場所にグループをコピーすると、グループ参照が表示されます。ユーザ権限は、グループ参照を使用して割り当てることができます。参照を使用すると、グループ構造を作成した後に、その構造をグループツリー内の別の部分にコピーできます。グループ参照を変更した場合は、元のカスタムグループのみが変更されます。しかし、それらの変更はすべての参照場所に継承されます。

元のグループへのリンクにアクセスするには、グループ参照を選択します。リンクをクリックすると、グループツリーのノードが展開され、元のグループの [プロパティ] タブが開きます。

マルチテナント展開のグループ

グローバル管理者 (デフォルトテナントの管理者) が少なくとも 1 つのテナントを作成すると、マルチテナントをサポートする機能が有効になります。「マルチテナント展開」は、IP アドレスが重複する可能性のある個別の複数の企業から構成されます。 [グループ] ツリーに追加のグループが表示されると、管理者はテナントインベントリを構成し、権限を割り当てることができます。

定義済みテナント

すべてのテナントを含みます。テナントは、単一の CA Performance Center インスタンスで個別のカスタム環境を監視するために、IP ドメインと共に使用されます。各テナントには、テナント間で共有されないアイテムのサブグループを複数含めることができます。

テナント管理者は、テナント内にカスタムグループを作成できます。グローバル管理者の場合、テナントグループは [グループ] ツリーの [テナント] ノードに表示されます。

サービスプロバイダ グローバルグループ

グローバル管理者がテナント環境を管理するのに役立つアイテムのグループが含まれています。これらのグループは、管理者がテナントの IP ドメインに明示的に関連付けられていない共有アイテムを視覚化および構成するのに役立ちます。

共有アイテムからのデータにアクセスを割り当てるグループは、各テナントの下に表示されます。「サービスプロバイダ定義済みグループ」を参照してください。

トップレベルのインベントリ グループを展開すると、以下の追加グループがマルチテナント展開に表示されます。

ドメイン ▶

テナントと管理対象アイテムの関連付けに使用されるすべてのカスタム IP ドメインを含みます。デフォルト ドメインも含んでおり、デフォルト ドメインにはカスタム ドメインに明示的に割り当てられないすべてのアイテムが含まれます。詳細については、「IP ドメイン」を参照してください。

マルチテナント展開では、各テナントに自身のグループがあります。グローバル管理者がサービス プロバイダ グループにテナント グループ外のアイテムへのアクセスを許可しない限り、テナント ユーザにはテナント グループ外のアイテムは表示されません。

グループ(テナント)

グローバル管理者またはテナント管理者は、カスタム グループを作成できます。[グループの追加] ボタンを有効にするには、このノードを選択します。

インベントリ(テナント) ▶

テナント IP ドメインに関連付けられているすべての管理対象アイテムを含んでいます。すべての登録済みデータ ソースからのアイテムを、このグループに表示できます。

また各テナントには、インベントリ グループに以下のシステム サブグループがあります。

IP ドメイン

このテナントと関連付けられた IP ドメインを表します。検出されたすべての管理対象アイテムが、その IP ドメインによってこのテナントに関連付けられます。テナントの管理対象アイテムを参照するには、[グループ] ツリーのテナント IP ドメインをクリックします。

サービス プロバイダ 定義済みグループ

このテナントがアクセスできるデータを持つ共有アイテムをグローバル管理者が入力したグループが含まれます。これらのグループを使用して、選択したテナント ユーザ アカウントに共有デバイスのデータへのアクセスを付与します。

たとえば、サービス プロバイダが所有するルータは、複数のテナント ドメインからのトラフィックを処理します。サービス プロバイダ 定義済みグループを使用して、グローバル管理者は、そのルータのデータにテナント アクセスを割り当てることができます。この戦略によって、テナントはシステム パフォーマンスの独立した監視および検証を実行します。

サービス プロバイダ アイテム

テナント IP ドメインに明示的に関連付けられないすべてのアイテムが含まれます。このようなアイテムは、このグループに自動的に配置されます。グローバル管理者はこれらのアイテムを「サービス プロバイダ 定義済みグループ」に追加して、共有アイテムのデータにテナント アクセスを割り当てることができます。

独自のカスタムグループの作成

ユーザアカウントで「マイ カスタム グループ」機能が有効な場合、管理対象アイテムをカスタムグループ内に配置して整理できます。「マイ カスタム グループ」領域内のグループは、作成者のみに表示されます。

重要: CA Infrastructure Management Data Aggregator データ ソース用のグループを作成した場合、グループ メンバシップは 10,000 までのアイテムに制限することをお勧めします。この数には、管理対象アイテムの子も含まれます。この制限を守ることにより、レポート時間を 10 秒以内におさえることができます。

次の手順に従ってください:

1. CA Performance Center にログインします。

ユーザアカウントでマイ カスタム グループ機能が有効な場合、コンソール ツールバーの [マイ設定] タブを参照します。

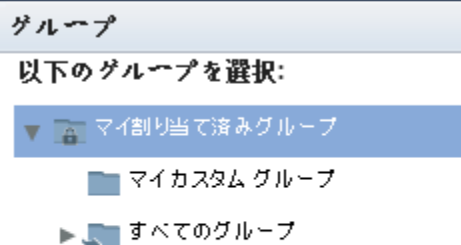
2. [マイ設定] を選択して、[マイ カスタム グループ] をクリックします。

[マイ カスタム グループ] ページに、グループ構造のツリー ビュー、およびグループ プロパティのタブ付きビューが表示されます。

注: 表示されるグループは、管理者が各ユーザの役割に基づいて選択したグループのみです。

ページ内に、グループがツリー構造で表示されます。

3. [マイ割り当て済みグループ] ツリー内の [マイ カスタム グループ] ノードを参照します。このノードのサブグループとしてグループを追加できます。



注: 管理者が作成したカスタム グループは、[マイ カスタム グループ] インターフェース内で編集できません。これらの読み取り専用グループはグループ参照として表示されます。そのプロパティ タブには、元のグループへのパスが表示されます。

4. [マイ カスタム グループ] ノードを右クリックし、[新規グループの追加] を選択します。

[グループの追加] ウィンドウが開きます。

デフォルトでは [新規] タブが選択されています。

5. 以下のパラメータの値を入力します。

グループ名

グループの名前を指定します。グループ名には特殊文字 (/&¥,%) を使用できません。

説明

(オプション) グループの識別を容易にします。

6. 以下のパラメータの設定を確認します。

管理対象の子アイテムを含める

管理対象アイテムがこのグループに追加されると、自動的にその子アイテムも追加されます。このオプションを無効にして、ルータをグループに追加した場合は、そのルータ上のインターフェースは追加されません。そのため、それらのデータはドリルダウンビュー内に表示されません。

デフォルト: 選択済み。

7. [グループ タイプ] リストから [カスタム] または [サイト] を選択します。

タイプに [サイト] を選択した場合、追加パラメータが表示されます。

場所

都市や支社などサイト グループに関連付けられた物理的な場所を識別します。

8. [保存] をクリックします。

新しいグループが、[マイ割り当て済みグループ] ツリーに表示されます。他の CA Performance Center ユーザはこのグループを見ることはできません。

ユーザがアイテムを追加するまで、グループにはアイテムが含まれていません。カスタムグループにアイテムを追加するには、以下の2つのオプションがあります。

- グループに手動でアイテムを追加します。
- グループメンバシップを管理するルールを作成します。

詳細情報:

[ルールに従って管理対象アイテムをグループに追加 \(P. 66\)](#)

[手動で管理対象アイテムをグループに追加 \(P. 64\)](#)

手動で管理対象アイテムをグループに追加

選択する管理対象アイテムを追加することで、カスタムグループを手動で入力できます。

注: [グループ] ツリー内に「錠前」のシンボル付きで表示されたシステムグループは読み取り専用であることを示します。システムグループへのアイテムの追加、およびシステムグループからのアイテムの削除をすることができません。さらに、管理者が作成したカスタムグループもロックされます。

以下の手順に従います。

1. CA Performance Center にログインします。
2. [マイ設定] を選択して、[マイ カスタム グループ] をクリックします。

[マイ カスタム グループ] ページには、グループ構造のツリービューと、グループプロパティのタブが表示されます。

3. グループ ツリーのノードを展開し、管理対象アイテムを追加するグループを見つけて選択します。

このグループにすでにアイテムが追加されている場合、それらのアイテムは右ペインに表示されます。

注: 手作業として直接グループに追加されたアイテムは、[グループ プロパティ] ペイン内に直接アイテムとして表示されます。管理対象アイテムの子であるという理由でグループに追加されたアイテムは、[グループ プロパティ] 内に継承されたアイテムとして表示されます。

4. 右側のペインの [アイテム] タブをクリックします。

[アイテムの表示] リストが表示されます。

5. [アイテム タイプの追加] をクリックします。

[アイテムの追加] ダイアログ ボックスが表示されます。

6. 追加するアイテムのタイプを [利用可能なアイテム] リストから選択します。

利用可能なアイテムは、アイテム タイプ、登録されたデータ ソースおよび検出されたアイテムによって異なります。

アイテムのその他のページを表示するには、リスト下のリンクをクリックします。または、[検索] フィールドを使用して、リスト内のアイテムを検索します。

7. アイテムのチェック ボックスを選択します。ページ上のすべてのアイテムを選択するには、テーブルヘッダ行内のチェック ボックスを選択します。

8. [アイテムの追加] をクリックします。

[アイテム] が更新され、新規グループ メンバを表示しますが、[アイテムの追加] ダイアログ ボックスは開いたままです。

9. アイテムの追加が完了したら、[閉じる] をクリックします。

ルールに従って管理対象アイテムをグループに追加

システムやネットワークが変更されると、カスタムグループを最新に保つのは困難な場合があります。そのため、ルールを使用してカスタムグループにデータを追加することができます。ルール仕様に適合するアイテムが新しく検出されると、グループに追加されます。同様に、アイテムがルール要件を満たさないか、監視されなくなった場合、そのアイテムは削除されます。

以下の手順に従います。

1. CA Performance Center にログインします。
2. [マイ設定] を選択して、[マイ カスタム グループ] をクリックします。

[マイ カスタム グループ] ページには、グループ構造のツリービューと、グループプロパティのタブが表示されます。

3. グループツリーのノードを展開し、管理対象アイテムを追加するグループを見つけて選択します。

このグループにすでにアイテムが追加されている場合、それらのアイテムは右ペインに表示されます。

4. 右側のペインの [プロパティ] タブをクリックします。
 5. [プロパティ] ページの [ルール] タブをクリックして、[ルールの追加] をクリックします。
- [ルールの追加] ダイアログボックスが表示されます。
6. ルールの名前を入力します。
 7. [追加] リストからグループに追加する管理対象アイテムのタイプを選択します。

利用可能なオプションは CA Performance Center に登録されたデータソースによって異なります。

8. [条件の追加] をクリックします。
ドロップダウン リストの行とフィールドが表示されます。

9. 管理対象アイテムを識別する方法を選択します。たとえば、[デバイス タイプ] を選択します。オプションには、アイテムの説明、名前、タイプ、および IP アドレスが含まれます。
残りのリストは、選択されたアイテムのタイプに一致するよう更新されます。
10. 2 番目のリストから一致するメソッドを選択します。たとえば、「==」を選択します。

重要: [指定のサブネット内にある] および [指定のサブネット内がない] オプションで指定する IP アドレスには CIDR 表記を使用します。
[指定の範囲内にある] および [指定の範囲内がない] オプションで指定する IP アドレスにはドット付き 10 進表記を使用します。

11. (オプション) 残りの条件フィールドに一致するテキスト文字列を入力します。たとえば、「Southwest」地域のすべてのルータおよびサーバを追加するには、「sw*」など適切な命名規則の文字列を提供します。

注: このフィールドでは、複数文字列と一致するアスタリスク (*) などのワイルドカード文字が使用できます。

12. (オプション) [OR] 一致を追加するには、条件の最後の [+] をクリックします。

[OR] ドロップダウンリストが表示されます。

13. (オプション) [AND] 一致を追加するには、[条件の追加] をクリックします。

さらに3つのドロップダウンリストが表示されます。

注: [AND] 条件インジケータは表示されません。対照的に、[OR] オペレータを選択すると、[OR] インジケータが表示されます。

14. [プレビュー結果] をクリックし、アイテムに新規ルールが含まれていることを確認します。

結果が [グループルールプレビュー] ウィンドウに表示されます。各アイテムタイプを展開して、追加された特定のアイテムを参照できます。

15. (オプション) グループにその他のアイテムタイプを追加するには、[+ルールの追加] をクリックします。

各アイテムタイプには、独自のルールが必要です。

16. ルールを作成し終わったら、[保存] または [ルールの保存と実行] をクリックします。

- [保存] - ルールを実行せずに保存します。グループは次のグローバル同期中に入力されます。グローバル同期は、約5分ごとに発生します。
- [ルールの保存と実行] - ルールを保存し、グループをすぐに入力します。

用語集

イベント

イベントは、ネットワーク インフラストラクチャにおける瞬間的な出来事によってトリガされるメッセージで、通常は重大な事象が発生したことを示します。イベントはいくつかの理由でレポートされます。データがしきい値を超えた場合、または設定変更が検出された場合にレポートされます。

グループ

グループは、管理対象アイテム用のコンテナとして機能するフィルタ定義です。グループは、ツリー構造の管理対象アイテムを論理的に構成することができ、各グループにはサブグループまたは管理対象アイテムを含めることができます。構造はデータ ソースに継承され、データ ソースでは、トップレベルのグループから、さらに狭い関連コンテキストにドリルダウンできます。

コンテキスト ページ

コンテキスト ページは、単一のルータまたはサーバなど絞り込んだコンテキストから特定の焦点を絞ったパフォーマンスまたはステータス データを提供します。これらのページは、[サマリ] ダッシュボードのドリルダウン リンクまたはタブから利用可能です。

サイト グループ

サイト グループは、都市、地域、支社またはキャンパスなど物理的な場所に基づくカスタム グループです。通常、サイト グループには、アイテム、および場所によってグループ化されるアイテムのサブグループが含まれます。サイト グループをツリー構造内の他のカスタム グループに追加することにより、地理的および論理的に整理されたレポートを構築できるようになります。サイト グループを使用して、ダッシュボード ビューを営業時間でフィルタリングできます。

サマリ ページ

サマリ ページは、管理対象アイテムのグループの平均など高レベル情報を提供します。サマリ ダッシュボードは、選択されたコンテキストに関連する、より詳細なページへのドリルダウンパスをしばしば提供します。

しきい値イベント

しきい値イベントは、CA Infrastructure Management によって管理されるいくつかのイベント タイプの 1 つです。デバイスがしきい値に違反すると、CA Infrastructure Management はこれらのイベントの 1 つを作成します。このイベントは対応するアラームをトリガできます。

ダッシュボード

ダッシュボードは、CA Performance Center ユーザ インターフェイス内で動的にレポートを作成するページです。これらは、[ダッシュボード] タブからアクセス可能なメニュー アイテムとして表示されます。各ダッシュボードは、単一の Web ページ上の登録済みのデータ ソースからのデータを表示するビューのコレクションです。各ダッシュボードのレイアウト、ビュー、時間間隔、およびグループ コンテキストは、カスタマイズできます。

データ ソース

データ ソースは、パフォーマンス データおよび設定データを CA Performance Center に提供するサポート対象製品です。データを監視、収集、集計するデータ ソース製品は、多くの場合独立して機能します。ただし、CA Performance Center のインスタンスに登録されると、データ ソースとして認識されます。

統計データ

統計分析データセットには、最小、最大、平均、標準偏差、および他のメトリックが含まれており、最新の収集データの内容が含まれるように 1 時間ごとに再計算されます。このデータは、選択された監視対象パラメータの過去のパフォーマンスを把握したり、現在のパフォーマンスを評価して将来のパフォーマンスを見積るのに役立ちます。たとえば、現在の CPU 使用率を既知のベースライン平均値と比較すると、現在の使用率が標準的な範囲内にあるかどうかを判断するのに役立ちます。ベースラインを超える監視対象パラメータは、新しいアプリケーションプロセス、ユーザまたはセッションの数の増加、または処理されるデータ量の増加によるサーバの負荷上昇を示すことがあります。

ベースライン平均および他の統計データは 1 時間ごとに更新され、過去 30 日間の各データについて、「同時間」の時間ごとに 30 個のロールアップ サンプルを平均します。

ドリルダウン

ドリルダウンするとは、CA Performance Centerのあるデータビューまたはダッシュボードから、さらに詳細な別のデータビューまたはコンテキストページへ移動することを意味します。新しいページには、同じタイムフレームからのデータが、同じアイテム管理対象アイテムまたはアイテムのセットに表示されます。

ビュー

ビュー、またはデータビューは通常、グラフまたは表形式で統計データを示します。各ビューは、収集されたデータの個別のセットを表します。ユーザアカウントの役割の権限に応じて、ダッシュボードページに個別のビューを追加および編集、または削除できます。場合によっては、データをCSV形式のファイルにエクスポートできます。

[マイダッシュボード] メニュー

[マイダッシュボード]メニューは、CA Performance Centerにユーザアカウントを持つ各オペレータ用にパーソナライズできるダッシュボードコンテナです。たとえば、レイアウトで別の位置にアイテムを移動させるなどしてカスタマイズする、すべてのダッシュボードは[マイダッシュボード]に表示されます。そのような変更は、他のユーザは利用できません。

メニュー

メニューとは、ダッシュボードをコンテンツによって構成するために使用する[ダッシュボード]タブのセグメントです。デフォルトでは、管理者とデザイナーがメニューをカスタマイズし、それらをユーザアカウント役割に割り当てることができます。

レポート

レポートは、オンデマンドで選択した内容またはエクスポートされたダッシュボードページからの静的な出力です。ダッシュボードからエクスポートしたレポートは、関連するダッシュボードにデータおよび情報から静的なデータセットを作成します。オンデマンドのレポートは、インベントリ内の単一の管理対象アイテムまたはそのグループからのデータセットをキャプチャします。レポートは、印刷、電子メールでの送信、PDFやCSV形式でのエクスポートなどが可能です。各形式に対して、選択したデータセットがキャプチャされます。